

学校名 草加市立草加中学校

所在地 草加市氷川町2179-4

電話 048-925-5201

1 本校の概要

開校：昭和22年（開校75年）

教育目標：「目標を持ち、努力する生徒」

学級数：23学級（通常級21 特別支援学級2）

生徒数：794名

2 本校の実践

(1) 実践の視点

「多様な読書体験から、自ら読書に親しむ児童生徒の育成」
～読書環境の整備・読書習慣に関する取組を通して～

(2) 実践の概要

ア 「おはなし給食」の取組

学校栄養士が、物語に出てくる料理を給食のメニューに入るように、9月から12月の間で、月に1～2回の「おはなし給食の日」の献立を作成した。給食時に、放送で「おはなし給食」の物語の一部分を読み聞かせしたり、給食室近くの掲示板に本の紹介を掲示したりした。

イ 読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組

・スタンプカードとしおりプレゼント

1学期末の長期貸出しに合わせて、スタンプカードと、スタンプカードが全てたまったらしおりをプレゼントするイベントを行った。アイデアは図書委員会で練り、しおりのデザインには、体育祭のクラス旗の写真を使った。生徒には大好評で、しおりをたくさんの生徒にプレゼントすることができた。1学期の貸出数も、コロナ前を大きく上回る貸出数になった。

・本おみくじ

3学期初めの取組で、これは学校司書のアイデアである。図書委員にも活動させ、中に図書委員各自のお薦め図書を載せた。何を讀んだらいいかわからない生徒にとって、お薦めの本が載っていた方が、読書へのきっかけになるかもしれないという委員会活動の反省から、お薦めの本を載せることに至った。

ウ 学校図書館等の環境整備の工夫

・コロナ禍における貸出し配達システム

アイデア、ネーミング、ルール、デザイン、リュック型のバッグ制作を、図書委員会の生徒が自主的に行った。夏休み明けは、午前中で下校だったので、それを前向きに捉え、読書をしてもらう機会と考えた。図書委員は、「貸出●ber」とネーミングを決めた。①図書委員が教室でクラスの生徒から決められた曜日に注文を取り、②学校司書が貸出し処理を行い、③図書委員の生徒が図書館でバッグに本を詰め、④翌日、本人に渡す、⑤返却も図書委員が借りた生徒から受け取り、図書館に返却するという流れ。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

ア 学校司書との連携

今年度は特に図書便りの充実を図った。2学期に給食とのコラボメニューを実施したので、それにまつわる図書便りを月に2回発行した。

イ 貸出数の増加

新着図書の登録・紹介を、学校司書が中心となり、新しく届いたらすぐに紹介している。また、館内・図書館前廊下に、定期的に図書を紹介する場所を設けている。それもあって、例年を上回る貸出数が達成できている。今後も取組を充実させていきたい。

(2) 課題

朝読書を週2回（火・木）実施しているが、静かな雰囲気で行われている。現在は「好きな本を、ただ読む」となっていて、それは本来の朝読書の目的に沿っていると考えている。しかし、現状としてはアニメのノベライズ本や、ライトノベルを読んでいる生徒が多い。国語の授業で貸出しを促すときは、「学びの多い本」「今まで読んだことない本」を借りるように指導している。声掛けをすれば、そういった図書を手に取り、借りていくことも多い。今後は、生徒が自発的に読む本をどう選ぶかといったことが課題である。